

町議会傍聴記

私のひとこと

六市町村合併の住民投票の結果、3分の2以上の反対により、合併しないことになった富士見町。財源不足を主とした説明会では、町民に合併後の将来像を描かせることが出来なかったのか。選択肢がないような説明会であって反対票を投じた人が多かったのか。いずれにしても、合併に対する論議はこれでほぼ終わりになったと思う。ただ諏訪地方の行政施策は、悪い言い方をすれば、どこも余り変わらない、特色が余り無いように感じる。

難しい問題が山積している中、各議員が思いおもいに一般質問をし、それに町長は淡々と答えている。質問の回数は3回までで、質問時間は1時間の制限があると聞く。本当にこれで議論が尽くされるのか。町の将来像を描くことが出来るのか。

私たち住民が議会に期待することは、行政と町民が一緒に、この町の将来像を創るための橋渡し役となることではないか



今年開駅100年目を迎える富士見駅舎
(開駅：明治37年12月21日)

富士見町の二〇〇三年は初めての住民投票で幕を下ろした。その結果をどう判断するかは、人それぞれ違うだろう。

私のように富士見に引っ越して12年という者もいれば、代々この町で生きて来られた方々もいる。それぞれ違う人生を抱え、価値観も違えば、出てくる結論が異なるのは当然のことだ。

そこで共通していたのは「この町をどんな町にしたいのか」という思いで、そのために町を見つめ直すいいチャンスであっ

と思う。魅力ある将来像の描けない町は、合併してもしくても住民にとっては、魅力も特色もない町に過ぎないのである。

(市川 武)

十二月定例議会一般質問を傍聴させて頂きました。十二月七日の六市町村合併の賛否を問う住民投票が、合併反対多数の結果を得た直後の議会で、これから町の進む道を少しでも理解したいと思ったからです。投票前のある記事で「市町村合併問題は議員としての資質を試される問題でる」

との文が心に残っていました。当議会も12名の議員質問事項に7名が合併問題を提示され、議員の質問も町長の答弁も町の進路の厳しさを感ずる熱い問答でした。住民一人ひとりが関心を持ち、協力で努力が必要と痛感しました。

行政と議会と住民参加のネットワークを広げ、民意を汲みながら、富士見町の自立(律)に向かって、明るい未来が開けることを願っています。

男女共同参画推進が叫ばれる今、女性議員の方々が素晴らしい意見を研鑽して質疑されている姿は立派でした。町長の答弁で、男女共同参画の条例の制定に向け、推進されることを期待しています。傍聴は良い体験でした。

(清水和子)

編集後記

今回の合併問題でいろいろな方と知り合い、語り合う機会に恵まれた。

ある若者の言葉。「富士見町に不便は感じるけれど苦にはならない」。こんな若者を育ててくれた富士見町に感謝している。

さて、年が明け、富士見でも新しい町づくりの年が始まる。町民が厳しい選択をした今だからこそ出来ることがあるはず。自信と誇りの持てる町づくりのため、我々議員の担う責任は大きい。皆様のご協力を心からお願いしたい。

(エンジェル千代子)



私たち新成人です 皆さんよろしく
成人式は1月11日(日)にコミュニティ・プラザで開催されました。
(成人式対象者 男 122名 女 110名 計 232名)

No. 87

2004年2月1日発行

発行 長野県富士見町議会

編集 議会広報編集委員会

電話 0266-62-9403

〒 399-0292

印刷 高原堂印刷所

【編集委員】
編集委員長 小林 光
副委員長 平出 高博
委員 小林 市子
委員 エンジェル 千代子
委員 小池 久長
委員 遠藤 正紘